


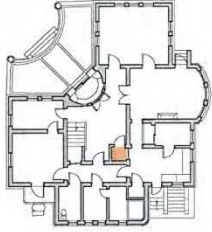


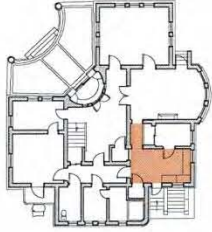

三河家住宅の特徴（タイルの使用について）

三河家住宅では、三河義行の趣向が様々に反映された意匠が随所に見られるが、各部屋によって仕上げに変化を与えている漆喰壁に加えて、多種多様なタイルが使われていることも特徴のひとつに挙げることができる。

また、多くの種類を用いるだけでなく、部屋の用途に合わせてタイルを選択している。浴室を除いた、台所配膳室、便所、洗面室などの水回りでは床面に無釉タイル、壁面に施釉タイルと基本的に同種のもので統一を図っている。廣間階段室やバルコニーといった来客の目に触れる部分、球突室や浴室、温室などの娯楽や趣味のための部屋には、モザイクタイルや布目タイルなどのより趣向を凝らせたタイルを用いている。3階バルコニーでは耐候性を考慮してセメントタイルが敷かれている。

震災にて隣地に建つ三河病院（木造）が焼失した後、病院としての使用を開始した際には、床面がタイル、壁面が漆喰壁で仕上げられ、水道設備も充実した温室が手術室へと転用された。

<三河家住宅タイル調査票、抜粋>

	写真	詳細写真	使用位置
NO.02 08. 電話室 無釉モザイクタイル4色 18mm角（6分角） 乾式プレス成形 模様張り NO.01 と同様のもの。		未撮影	
NO.03 06. 台所配膳室 無釉タイル 75mm角（八角形） 24mm角（8分角） 乾式プレス成形 他室でも使用あり。			
NO.04 施釉タイル平 150mm角（5寸角） 竹割ボーダー 幅×150mm ボーダータイル 40×150mm 乾式プレス成形 役物あり。他室でも使用あり。			
NO.23 セメントタイル （詳細は未調査）	